

今週のメニュー

■トピックス

◇第21回中央区 子どもとためす環境まつりに出展～中央区立豊海小学校～

■随想

◇2005年シリア旅行記（4）クラシック飛行機

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇第21回中央区 子どもとためす環境まつりに出展～中央区立豊海小学校～

10月5日（土）、中央区環境保全ネットワークが主催する体験型環境イベント『第21回 子どもとためす環境まつり』が、東京都中央区立豊海小学校で開催されました。塩ビ工業・環境協会は、PVCクラフト教室とオリジナル消しゴム作り教室を出展。今回のメルマガではイベントの様子を中心に中央区の環境教育の取り組みを紹介します。

『子どもとためす環境まつり』は「中央区の区民と企業、行政が連携して環境保全に取り組み、より良い地球環境を次世代に残す」という目的の下、中央区環境保全ネットワークにより立ち上げられました（2002年）。以来、体験型の環境イベントとして、中央区内の小学校で毎年開催され、今年で21回目の開催となります。参加する企業・団体は29団体、小学校7校、親子連れ700名が参加。VECは環境学習の応援として、2009年から毎年参加しています。



VECのブースでは、昨年も好評を博したPVCクラフトと消しゴム作りを出展。クラフト教室では、硬質PVC製の動物クラフトをブースにて組み立てて頂きました。シートから動物のパーツを取り外して器用に組み立て、完成した作品は別バージョンのクラフトシートとパンフレットと一緒に持ち帰って頂きました。

また、今年は消しゴム作りを昨年の4回から6回に枠を増やし、約60名の子供達に体験して頂きました。「消しゴムづくりをしたくてここに来ました!」という子も。好きな色の消しゴムの原料（ペースト塩ビ）をたこ焼き機の穴に流し入れて、待つこと30分。出来上がった消しゴムを取り出すときの子供達の驚きの表情と喜びの声に励まされ、盛況のうちに終わることができました。



PVC クラフト教室の様子



消しゴムづくりの様子

一方、大人向けの展示コーナーでは、身の周りの様々な塩ビ製品を展示（塩ビパイプ、フィギュア、食品サンプル、塩ビラップ、縄跳び、壁紙、バッグなど）。実際に触っていただきながら、他のプラスチックとの違いやリサイクル性などを説明。塩ビの60%が塩から作られていることに“本当に？面白い！”と興味を持って頂き、主催者によるアンケートでは“塩ビが身近にたくさんあることがわかった”などの回答を頂きました。

当日は降ったり止んだりの空模様でしたが、VECのブースには100名を超える来場者が訪れ、塩ビについて知って体験して頂くとても良い機会となりました。途中には中央エフエムや、サーモンプロジェクト※のOBの方が訪れ、VECのブース内容と塩ビについて取材を受けました。

実行委員会の方々、豊海小学校の関係者の方々の努力で今年も無事に終わることが出来ました。VECは今後も同様のイベントに積極的に参加し、塩ビの広報活動を推進したいと考えます。

今回、ご紹介した『子どもとためす環境まつり』は様々な分野・ブースでの体験を通して、地球の環境保全について学んでもらうイベントです。子供たちのみならず環境を大切にする思い、そして、自分に何ができるのかを改めて問い直す良い機会を提供していると感じます。今後、中央区環境保全ネットワークの活動が益々拡大していくことを期待しております。

※ 成長した鮭（サーモン）が生まれ育った川に戻ってくるように、中央区で育った子供がいろいろな経験を通して成長し、大人になって中央区に戻り、活躍してほしい、中央区を活性化してほしいという願いが込められたプロジェクトとのこと（主催：中央区環境保全ネットワーク）。

■ 随想

◇2005 年シリア旅行記（4）クラシック飛行機

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

2023 年、内戦状態にあるシリア、2012 年には首都ダマスカスにある日本大使館は閉館され現在も再開されていません（在レバノン大使館が在シリア大使館臨時事務所になっています）。また日本の外務省からはシリア全土に対して退避勧告（退避してください、渡航はやめてください）が出されています。

日本政府はシリアの在留邦人の人数は安全上の理由から非公開としていますが、現在でも国際機関、医療機関、NPO などに所属する日本人職員が居られます。

このような状況ではありますが、シリア国営シリア・アラブ航空 (SYRIANAIR) の他、トルコや中東の航空会社による旅客サービスの運行は続いています。

シリア・アラブ航空、現在は世界各国の航空会社が使用しているエアバス A320 や A340 を中心とした運行を行っているようですが 2005 年はちょっと違いました。

今回の旅行で主に滞在したのはダマスカス北に 230 キロ程度来た地方都市 Hama（ハマ）です。

シリア国内の移動はバスが一般的。主要都市の間は大型バスが。周辺の町や街中はミクロバスと呼ばれる小型バスが結んでいます。

隣国であるレバノンやヨルダン行きの国際バスもありますし、イラク行きの乗り合いタクシーも出ています。

以前はメジャーなルートであったヨルダンからイラクへの日本人の入国、現在は非常に難しくなっていますが、シリアからの入国は比較的チェックがゆるいと聞いています。イラク行きを希望される方はシリアからどうぞ。

(2003 年、アメリカ、イギリスを中心とする多国籍軍が大量破壊兵器を保有するとされたイラクに侵攻。「イラク戦争」とも呼ばれ 2011 年、当時のアメリカ、オバマ大統領による戦争終結宣言まで多国籍軍による監視（占領）下にあり イラクへの出入国が厳しく制限されていました。)

シリアにも鉄道はあります。

イギリス政府の命を受け有名な「アラビアのロレンス」がアラブ諸国を混乱させ、これに乗じて一帯の覇権を確保し、アラブ諸国の物流を阻止するため線路に爆弾を仕掛けまくった“ヒシャーズ鉄道”です。

ロレンスさんのおかげで「鉄道とは危険なものである」という意識がシリア国民に定着。そんなに危険な駅を市内に作るなんてとんでもないと以前は市内にあった駅が郊外に移されたため非常に不便。

鉄道好きの旅行者や貨物を除きほとんど利用されていません。

シリアの人の一般的な移動手段はバイク。

昔はシリアでバイクといえば日本製と決まっていたのですが、現在走っているバイクで日本製なのは白バイくらい。

街中を走り回っているバイク。ほぼ全部とっていいくらい中国製です。

実際に運転してみました。品質的には全く問題なし。日本の忠実なコピー製品なのでどう見ても HONDA のバイクに見えます。但し、ロゴは HONDA ではなく JONDA でした。

発音も HONDA は「ホンダ」、JONDA は「ヒョンダ」（“ヒョ”は“ホ”が鼻にかかった発音なので普通に聞くと“ホ”とほとんど区別は付きません）。

性能は日本製バイクとほぼ同じ、半額以下で買えるのですから、みんなそっちを買いますよね。

車、特に小型トラックも日本製はほとんど見当たらず韓国 KIA が圧倒的です。

各国、コピーであろうがそれなりに技術力をつけ、品質的には日本製とあまり変わらなくなってきたので、値段で勝負すると勝てなくなっているのですね。

飛行機に関しては国内線の飛行機による旅客サービスもあります。国営 SYRIANAIR が主要都市を結んでいます。機材は日本やアメリカでは既に引退したものばかり。整備状態も。。。

最近、シリア初のジャンボジェットと鳴り物入りで導入したジャンボジェット (Boeing747) も中古の中古。1970 年前半に製造された B747-SP です。

1970 年ジャンボジェットが初飛行をしました。この頃のジャンボ

ジェットは飛行航続距離が短くニューヨーク・東京をノンストップ（無給油）で飛ぶことが出来ませんでした。このためいまはなくなってしまいましたが当時、世界の航空会社であったパンアメリカン航空がニューヨーク・東京間でノンストップサービスを行うためボーイング社に特別発注した飛行機が B747-SP です。

B747-SP は胴体の長さを 20%ほど短くすることで軽量化するとともに、尾翼を大きくするなど航続距離を延ばすための様々な改良がされた飛行機です。その後、エンジンなどの効率化が進み、普通の機体でもニューヨーク・東京間の飛行ができるようになったため、全部で 45 機しか製造されませんでした。

B747-SP、実験、研究用を除きほとんどの機体は引退したはずなのですが、どこから持って来たのでしょうか？

1980 年代中頃までニューヨーク・東京間でも使われており、私も何度も乗った B747-SP。搭乗券が手に入れば SYRIANAIR の B747-SP も乗りたいなあと思っていましたが



SYRIANAIR の B747-SP

ダマスカスの飛行場に止まっている機材の整備状態を見てやめました。
SYRIANAIR が墜ちたという話は聞きませんが、情報操作で闇に葬られているだけだった
りして。。。

(SYRIANAIR は2機の B747-SP を保有していました。1機は引退し解体されました
が、残る1機は2021年まで旅客サービスに利用されていた世界最後の機体となりまし
た。旅客サービスは終了しましたが最後の機体は解体されることなく現在も SYRIANAIR
が保存しているようです。)

(続く)

次回は、(5) 水車 です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

日本最大規模の環境展「エコプロ2024 <環境問題とSDGsに向き合い持続可能な社会へ>」が12月4日(水)~6日(金)、東京ビッグサイトで開催されます。塩ビ工業・環境協会(VEC)は、塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)と共同でブース出展します(東5ホール5-086)。

私たちのブースのテーマは【生活を豊かにするPVC】、海水から作られるエコ材料=塩ビの紹介からインフラや医療現場での社会貢献事例、樹脂窓や塩ビ複合材のリサイクルの取り組み事例を紹介します。また、『塩ビのなぞなぞクイズラリー』を開催して全問正解者にはかわいい景品【海からの贈り物シリーズ】(リサイクルペンケース、または、透明ポーチ)を差し上げます。皆様のご来場をお待ちしております。

<https://messe.nikkei.co.jp/ep/>

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp